

【樹木・草花の部屋】

シキミ (シキミ科シキミ属 *Illicium anisatum* L)

和名；シキミ **別名**；シキビ、ハナノキ、ハナシバ **英名**；Japanese star anise

シキミ目 広葉常緑樹

原産地；日本、中国 **花言葉**；猛毒 **花の色**；白（クリーム色）



← 写真－1 シキミの樹形

撮影日：2012年11月6日

撮影場所：広陵町馬見 S邸にて

撮影者：Sさん

我が家のシキミはもう10年くらい前に植えたのですが、枝を切って仏事に使用しています。

週に1～2度枝を切るので大きくなっていません。写真は他の樹木と重なって見にくいかもしれませんが、真ん中のひょろっとした木がシキミです。

写真－2 シキミの花・蕾 ⇒

撮影日：2008年5月6日

撮影場所：広陵町馬見 S邸にて

撮影者：Sさん

以前はモクレン科でしたが、現在では独立したシキミ科に分類されます。

3月～4月頃、径3cmくらいのクリーム色の花を多数咲かせます。葉は深い緑色で革質、光沢があり美しいです。



種類： 変種にウスベニシキミ 沖縄原産のオキナワシキミ、また、葉に淡い黄色の斑が入るフイリシキミもあります。近似種にはトウシキミもあります。

【樹木・草花の部屋】

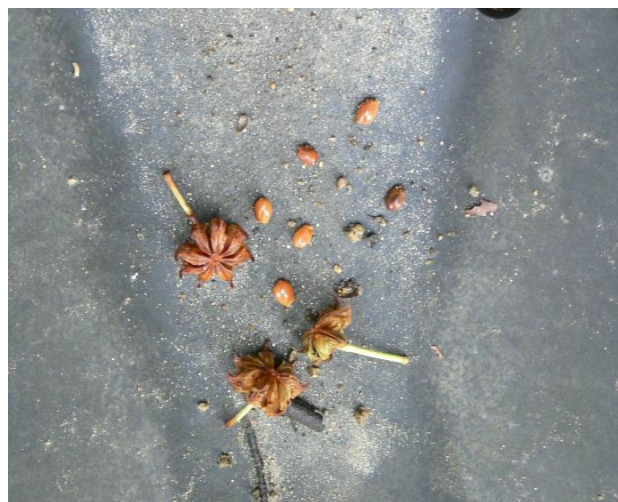


写真－3 シキミの実 ↑

撮影日：2012年10月26日

撮影場所：広陵町馬見 S邸にて

撮影者：Sさん



写真－4 シキミの種 ↑

撮影日：2012年11月6日

撮影場所：広陵町馬見 S邸にて

撮影者：Sさん

変わった形の実です。シキミは有毒の植物ですが、特に実は毒性が強く、劇物指定（毒物及び劇物指定令）されています。熟した果実は星のような形をしており中華料理に良く用いられる「八角」（同じシキミ科の樹木トウシキミの果実）とそっくりですが猛毒で決して口にはしてはいけません。中毒症状は全身けいれん、おう吐、死亡などです。

<ちょっと一言>

中国や本州の関東より西、四国、九州、沖縄など比較的暖かい地域の山地に見られる広葉常緑樹で、育つと樹高は5mほどになる小高木です。

樹皮や葉は乾燥させて粉にして抹香として用いられます。そのほか枝葉は仏壇に添えられたり、葉が末期の水をとるのに用いられたり、仏事と関連の深い樹木です。そういう兼ね合いからなのかわかりませんが庭木以外にお寺によく植えられています。

由来 果実だけではなく全木に毒をもっている有毒植物ですが、特に果実の毒性が強く「悪しき実」が転じてシキミと言う名前になったと言われています。他にも季節に関係なく芽を出すので「四季芽」からシキミになったとか、やや平べったい形をした実の形から「敷き実」に由来するなど諸説があります。

剪定の注意点 シキミは自然に放置してもそれなりの樹形になりますが、病虫害の事を考え混み合っている枝を抜く‘透かし剪定’を行なって風通しと日の差し込みを良くします。樹高は環境の合った所では5m位まで大きくなるので植え付け場所に応じた高さで、芯を止めるようにします。家庭で仏事に利用するために植えてある場合は、樹高を押さえ形の良い（真っ直ぐで長い）小枝を多く残しておく并利用しやすいでしょう。